

# 半導体漫遊記 湯之上隆

米半導体のブロードコムが11月6日、米クアルコムに総額1300億ドル(約15兆円)の買収を提案した。もしこの買収が成功すれば、世界半導体産業史上、最大のM&Aとなり、世界第3位の巨大半導体企業が誕生する。その上、ブロードコムとクアルコムは両社とも、通信用半導体のトップ企業であるため、世界の通信用半導体を独占することになる。

15年の半導体売上高ランキングでは、「半導体の買収王」と称されるホック・タンCEO(最高経営責任者)率いるアバゴが11位(69・5億ドル)であ

ランキング6位に躍り出た。一方、クアルコムは16年10月、オランダNXPを470億ドル(約4・9兆円)で買収すると発表した。NXPは車載半導体のトップシェア企業であり、クアルコムは自動車用AI半導体で世界を制することを

た。16年の半導体売上高ランキングでは、ブロードコムが6位(131・5億ドル)、買収しようとしているクアルコムが4位(153・5億ドル)、クアルコムが買収しようとしているNXPが10位(91・8億ドル)である。

もし、この買収が成功すれば、新生ブロードコムが4位(153・5億ドル)、クアルコムが買収しようとしているNXPが10位(91・8億ドル)である。従って、各国の司法省における独占禁止法の審査が非常に

厳しい。場合によっては、「NO」となるかもしれない。それにしても、今年17年の世界半導体業界は激動の1年だった。まず、東芝メモリの売却騒動があった。次に、メモリ価格が高騰しその市場が急拡大したこともあって、1992年以降、世界半導体売上高1位に君臨し

てきたインテルを、サムスン電子が抜き去ることが確実となった。そして、今回のブロードコムによる世界最大規模の買収劇である。しかし、2017年が終わるまで、後1カ月少々ある。まだ何か大事件が起きるかもしれない。(微細加工研究所・所

ない。世界半導体業界から一時も目が離せない。

## 激動の世界半導体業界

### 第3位の新生ブロードコム誕生か？

この買収劇の端緒は、米ヒューレット・パッカートの半導体部門が独立したアバゴ・テクノロジーズが、2015年5月に旧ブロードコムを370億ドルで買収すると発表したことから始まった(図1)。

り、自身より売り上げ規模の大きな10位の旧ブロードコム(84・1億ドル)を370億ドル(約4・6兆円)で買収したのである。この買収金額は、その時点で世界最大だった。そして、アバゴは、買収した企業のプロードコムを名乗る(これも異例だ)、新生ブロードコムは、世界

くろんでの買収であった。そしてこの買収金額は、世界最高額を更新した。ただし、この買収は、中国と欧州における独占禁止法の審査が終わっておらず、まだ完了していない。そして、今回、新生ブロードコムは、世界

ドコムの売上高は合計で376・8億ドルとなり、台湾TSMC(289・7億ドル)を抜いて、1位インテル(539・7億ドル)、サムスン電子(401・4億ドル)に次ぐ、世界第3位の巨大半導体企業となる(図2)。

ただし、問題もある。まず、クアルコムがこの買収提案に賛成

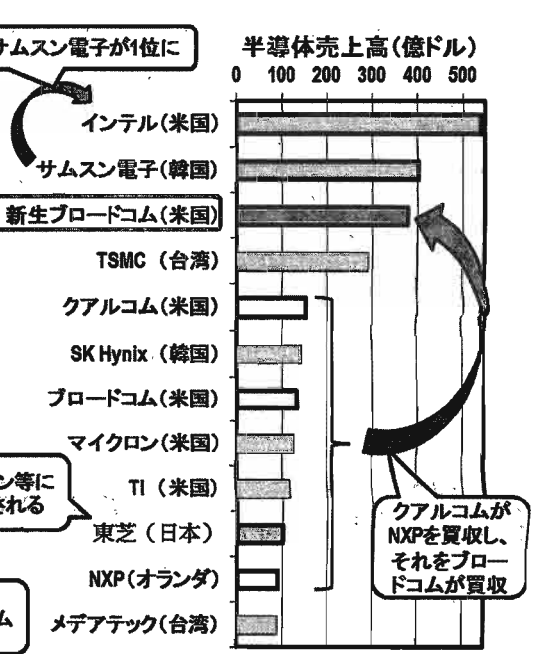
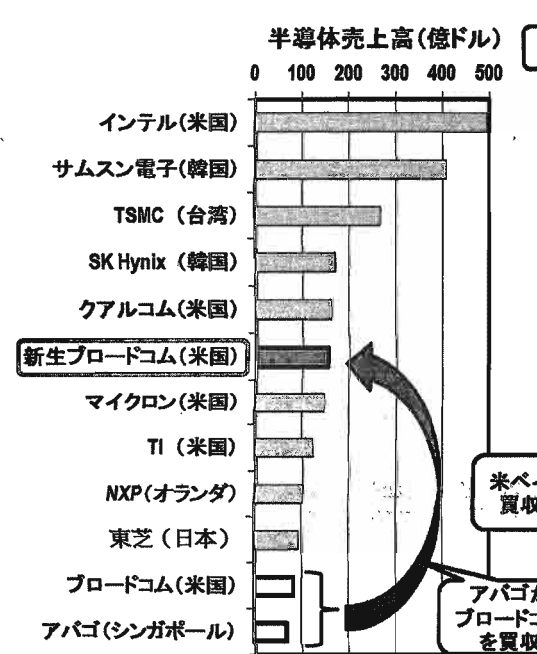


図1 世界半導体売上高ランキング (2015年)

図2 世界半導体売上高ランキング (2016年)